

グループ1 費用の問題

(総事業費、基金依存、一人当たりのコスト など)

目的が2つ存在しているため両立した案を考えることが大変。

町は何を目的にしているのか明確にすることで対策も変わってくるのではないかな。

事業の目的別に事業の構想を練る必要がある。

【姉妹町交流を目的にした場合の意見】

- ・NZ以外(他の行き先)も検討できるのでは。NZよりも渡航費用の安い行先に変更など。
- ・姉妹都市への理解は渡航しなくても深められるのでは。
- ・交流事業が悩みのネタになっている？⇒人材育成としての学習目標と目的が2つあるため。
- ・姉妹町交流が目的なら参加者を成人にすることで、支払い(個人負担分)を増やすことも可能。
- ・日程を短くする。
- ・安価な時期にシーズンを変更する
- ・募集定員を削減
- ・付き添う大人の人数を削減
- ・NZからの受け入れ回数を増やす。⇒派遣は隔年にする。

【人材育成(学習)を目的にした場合の意見】

- ・学校の教育事業プロジェクトとして横軸で検討。
- ・現地の体験と国内研修は得られる効果は異なるが、英会話なら国内でイングリッシュキャンプ。
- ・オンライン交流(英語学習)はどうか。帰国報告会の様子もオンラインで現地に伝える。
- ・隔年にした場合、対象学年は幅広く設定する。
- ・慣れてきたところで帰国というスケジュール感がもたない。現在9日間とのことだが、12日くらいほしい。期間が短すぎて学びにならない。

【その他】

- ・他市町村の海外派遣事業と共同開催するのはどうか。

【全体を通して】

- ・目的が2つ存在しているため両立した案を考えることが大変。

町は何を目的にしているのか明確にすることで対策も変わってくるのではないかな。